

人と自然の
つきあい方を考える



防災研修プログラムのご案内

高知県・黒潮町



自然が持つ恵みと災いの二面性を知り、 人と自然とのつきあい方を学ぶ

太平洋に面した黒潮町は、黒潮がもたらす豊かな自然が広がっています。クジラやイルカ、アカウミガメなどの生きものが近くに暮らし、カツオの一本釣り漁業や天日塩など、海からの恵みとともに文化が育まれてきました。また、ホエールウォッチングやサーフィン・シーカヤック・ビーチコーミング・釣りなどの自然体験スポットとしても人気の町です。

一方で、黒潮町には高さ34mという日本最大の津波が想定されています。町では「避難放棄者ゼロ・犠牲者ゼロ」を目指し、全役場職員が各地区担当として町中に散らばり、官民が一体となって防災のワークショップを何度も繰り返してきました。結果、浸水区域内の全町民の避難カルテが作成され、それに基づいた避難道やタワーを建設、現在も避難訓練をはじめとした様々な防災対策に取り組んでいます。

昨今、日本だけでなく、世界中で地震・台風、地滑り・噴火・洪水・森林火災など大規模な災害が多発しています。今や安全なところはどこにもないかもしれません。そんな中で私たちに大切なことは、「自分の命を自分で守る」ために、“自ら考え行動する力”を身につけることではないでしょうか。

この防災研修プログラムは、自然が持つ恵みと災いの二面性を理解し、その自然と上手につきあうための文化や知恵を学ぶ、黒潮町がおすすめする研修プログラムです。

避難訓練をはじめ、日ごろから欠かすことのない備品の点検など、常に防災への高い意識を持ちつつ、犠牲者ゼロを目指す町の人々の想いや取り組みについて知り、また、あらゆる状況を想定した答えのない問題に対して意見を交わすことで、生存の可能性を高める柔軟な発想も身につけます。

ご希望に合わせて、海の恵みいっぱいの自然体験や地元食材による食体験もどうぞ。防災について学びながら、ぜひ黒潮町の魅力にも触れてください。



↑ 高知新聞
2019年9月6日



防災学習

全国最大の津波想定の高知県・黒潮町が考える「防災」のお作法

日本最大の津波想定された高知県・黒潮町。暮らしのすぐそばにある海は大いなる恵みを与えてくれるとともに、時に大きな災いをもたらします。自然の恵みと災いの2面性を理解し、私たちがそうした自然の一員であることを認識し、『自分の命は自ら守る』ことの大切さに気づく学習です。



プログラムの流れ

《座学》

黒潮町に出された日本最大級の津波被害想定 の原理や津波の仕組みを学習します。想定が出された直後からの黒潮町の対策や地域住民の取り組みを紹介します。

《ワークショップ》

災害時に発生するさまざまな状況を事例に、その状況に対し自分自身がどのように考え、判断をするのかの訓練を行います。さらにそこで考えた自分の意見をグループ内で議論し全体で共有します。

《フィールドワーク》

過去の津波に関する石碑の解説や津波避難タワーの機能の解説や実際の避難を想定した体験訓練だけでなく、地域住民の思いが詰まった緊急津波避難タワーであることを、地元住民スタッフからお話します。

佐賀地区 津波避難タワー見学

全国最大の津波想定により建設された国内最大級の津波避難タワー

国内最大級の津波高(34m)を想定された町として町内に6基の津波避難タワーが設置されています。見学可能な津波避難タワー2基のうち、国内最大級の高さを誇る「佐賀地区津波避難タワー」は、階段とスロープを併設したバリアフリー設計が特徴。避難訓練と同時に備品の点検や追加を行うなど、日頃から高い意識を持ち、「犠牲者ゼロ」を目指す町の人々の思いや取り組みについて学びます。



プログラムの流れ

《タワー見学》

佐賀地区津波避難タワーをはじめとし、他5基のタワーの機能の解説します。居室部や地区住民の準備した備品なども紹介します。また、平成29年度に高知県自主防災組織知事表彰を受けた地元自主防災組織から日常生活に根ざした『生活防災』の方法について事例を交えてお話しします。

《※「逃げトレ」による津波避難訓練(オプション)》

佐賀地区の塩屋の浜などからタワーまでのルートでどのくらいの速さで避難すればよいかなどをスマホアプリを使って避難訓練します。

※「逃げトレ」:津波避難訓練支援アプリ(監修:京都大学防災研究所矢守研究室)

防災缶詰創作料理

食から日常の防災を考える！

災害時の困りごとの一つに、アレルギーを抱えた人が避難所に来た際に食べられるものがないという問題があります。その問題に取り組み、黒潮町では地元食材を中心に7大アレルゲンを取り除いた様々な防災缶詰を作っています。日常から備えること、また、非日常で日常を取り戻す「食」として日頃から味わいローリングストックしていくことを推奨しています。缶詰をさらにおいしく食べるための防災缶詰を使った創作料理を堪能します。



ランチ洋食セット(一例)



プログラムの流れ

《防災缶詰創作料理》

黒潮町の防災缶詰ができるまでの経緯を紹介し、防災缶詰を使った創作料理をいただきます。和食セットもしくは洋食セットから選べます。日常から備えること(ローリングストック)、日常から缶詰を食することで、もしもの時の非日常から日常を取り戻すことにつながります。食から防災を考え、実践的な対処法を身につけます。

研修プログラム一覧

プログラム名(内容)	時間	料金	受入	備考
防災学習	2時間	2,000円/名	5～100名	防災学習及びタワー見学には基本、案内人がつきます
佐賀地区津波避難タワー見学	30分	500円/名	5～50名	スマホを使った津波避難訓練 (タワー見学のオプションプログラム) ※「逃げトレ」:津波避難訓練支援アプリ (監修:京都大学防災研究所矢守研究室)
「逃げトレ」による津波避難訓練 (フィールドワーク)	30分	無料オプション	5～50名	
防災缶詰創作料理	1時間	2,000円 ～3,500円/名	4～50名	ネスト・ウエストガーデン土佐 レストラン(和食・洋食セット) ※ランチ2,000円、ディナー3,500円です
津波避難タワー見学 +食事(カツオのタタキ定食等)	1.5時間	1,600円 ～2,000円/名	5～50名	道の駅なぶら土佐佐賀:1,100円～1,300円(通年) 黒潮一番館:1,500円(2月～11月)等
津波避難タワー見学 +海の恵み体験	2時間～	2,000円 ～6,500円/名	5～50名	天日塩づくり:1,500～2,000円 カツオのタタキづくり:3,500円 ホエールウォッチング:6,000円 等

日帰りプラン 所要時間:約5～6時間（必要経費:5,500円/名）

10:00 - 12:00



**ふるさと
総合センター**

体験 防災学習

12:30 - 13:30



黒潮一番館

昼食 カツオのタタキ定食

13:50 - 15:20



ソルトビー

体験 天日塩作り

15:45 - 16:15



**佐賀地区
津波避難タワー**

体験 見学・質疑応答



宿泊プラン 所要時間:1泊2日（必要経費:24,000円前後/名）

1日目

11:30 - 12:30



道の駅なぶら土佐佐賀

昼食 カツオのタタキ定食

13:00 - 13:30



塩屋の浜

体験 避難訓練「逃げトレ」、見学・質疑応答

13:30 - 14:00



**佐賀地区
津波避難タワー**

14:30 - 16:30



**ふるさと
総合センター**

体験 防災学習

17:30 - 19:30



**ネスト・ウエスト
ガーデン土佐**

夕食 防災缶詰創作料理
※写真はランチです

宿泊

2日目

8:00 - 12:00



入野漁港

体験 ホエールウォッチング

12:15 - 13:15



道の駅ビオスおおがた

昼食・お土産購入

13:30 - 15:00



ソルティーブ

体験 天日塩作り



参加者の声

グループワークが面白かった。自分は当たり前
前と書いていても、人それぞれの考え方や感
じ方があり、固定観念にとらわれるのは良く
ないと感じた。防災の意識を日頃から高く持
ちたい。〔香川県/30代女性〕

津波については日頃から意識しているつもり
だったが、室内でのワークショップにおいて、ま
だまだ考えの及ばない状況が災害現場では起
こりうることを痛感するとともに防災学習の必
要性を改めて実感した。〔高知県/50代男性〕

黒潮町総合センター

利用時間	9:00～23:00(時間は応相談)
休館日	年末年始(12月29日～1月3日)
収容人数	研修室(2室)18名、大ホール120名



大方あかつき館

利用時間	平日)9:30～18:00、土・日)9:00～17:00
休館日	毎木曜日・祝祭日(この日が休館に当たれば次の日も)、年末年始(12月28日から1月4日)、館内整理日(毎月末の金曜日)
収容人数	会議室40～60名、レクチャーホール210名



ふるさと総合センター

利用時間	8:30～17:00(時間は応相談)
休館日	年末年始(12月29日～1月3日)
収容人数	大ホール500名、多目的室70名、会議室70名、和室30名



土佐西南大規模公園

利用時間	8:30～21:00(時間は応相談) ※夜間利用は事前予約が必要
休館日	毎週火曜日・年末年始
施設詳細	多目的運動広場(人工芝)、球技状、野球場、多目的芝生広場(サッカー場、陸上競技場) 体育館、テニスコート、パークゴルフ場
URL	https://sunabi-sports.com/



施設の活用事例

黒潮町の各施設は、防災研修プログラムだけでなく、視察や会議をはじめ、国際会議や研修などに幅広く利用されています。近場には大規模な運動施設も備え、全国的なサッカー大会や四国アイランドリーグも実施されています。また公園内の砂浜では、毎年全国から数万の方が詰めかけるイベントも開催されるなど、多岐にわたり活用されていることが特徴です。

会議・ミーティング



防災視察、行政視察

津波避難タワーが隣接されているため、防災をはじめとする全国からの視察等で活用。また、多くの地域のNPOや活動団体などが会議やミーティングに利用しています。

研修・セミナー



JICA研修

国づくりの担い手となる開発途上国の人材を「研修員」として受け入れ、技術や知識の習得を行う研修です。世界中の様々な方に、2011年より毎年利用されています。

国際会議・学会



世界津波高校生サミット

「世界津波の日」の啓発活動の一環とし、防災について討議・発表をする30カ国の青少年による「高校生サミット」。津波避難タワー等でフィールドワークも実施されました。



漂着物学会

漂着物と海流散布植物の分布や漂着ペットボトルの現状など、漂着物について様々な視点での研究発表とともに議論・フィールドワークを行う学会です。

イベント・展示会



ミズノカップ

ミズノ株式会社主催による、全国から16チーム（約500名）の高校を誘致し地域へのサッカーの普及を図り、心身ともに健全な青少年の育成を目的とした大会です。



Tシャツアート展

公園内の砂浜を活用し、公募より集まった約1000枚のTシャツを展示します。地元NPOである砂浜美術館主催、毎年全国から約3.5万人の方が訪れる人気のアート展です。

黒潮町へのアクセス



黒潮町内の各施設へのアクセス



◎自動車の場合

高知空港 ⇒ 黒潮拳ノ川I.C
約91km / 約1時間30分

黒潮拳ノ川I.C ⇒ 道の駅なぶら
約8.4km / 約12分

黒潮拳ノ川I.C ⇒ 道の駅ビオスおおがた
約22.1km / 約26分

道の駅なぶら ⇒ 道の駅ビオスおおがた
約14km / 約19分

道の駅なぶら ⇒ 佐賀地区津波避難タワー
約1.5km / 約5分

道の駅なぶら ⇒ ソルティープ
約6.2km / 約9分

道の駅ビオスおおがた ⇒ ソルティープ
約7.8km / 約11分

道の駅ビオスおおがた ⇒ ふるさと総合センター
約2.5km / 約6分

道の駅ビオスおおがた ⇒ 入野漁港
約3.5km / 約9分

お問合せ先・予約

◎黒潮町観光ネットワーク



Tel: 0880-43-0881

Fax: 0880-43-1527

Email: ktn@sunabi.com

〒789-1911 高知県幡多郡黒潮町浮鞭3573-5(ビオスおおがた情報館内)